

tam tam

2021.11
VOL. 13

P1 【特集】
これからの「つながり」を作っていくために

P2 【特集】
丹波「社会的つながり」プロジェクトとは

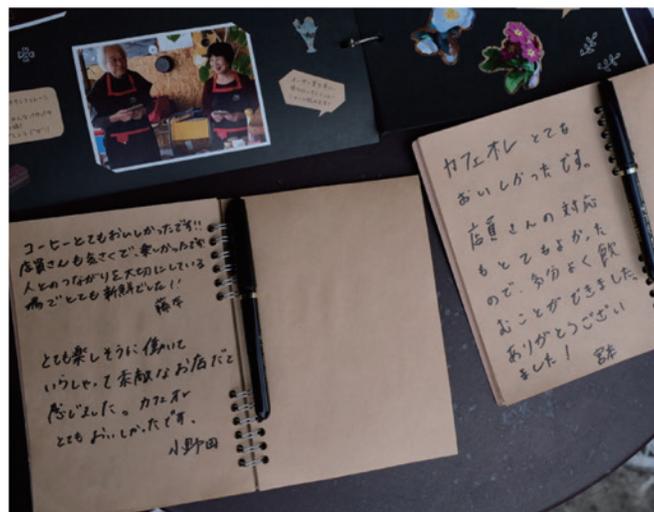
P3 隣の自治協さん「沼貴地区自治振興会」
丹波市民、学びの窓「パブリックコメントと地域づくり」

P4 繋ぐ！市民活動「佐俱倶楽部」
活動事業者紹介「バナレーサー」

SPECIAL FEATURE

今号の特集

これからの「つながり」を
作っていくために



左上：丹波市子ども・若者サポートセンター / 右上：注文をまちがえる喫茶店 だんない 来店者の感想ノート



誰でも集まれる「どんぐり食堂」によるお弁当デリバリー

「集まりたくても集まらない」「出会いたくても出会えない」「話し合いたくても、話し合えない」。コロナ禍が長引く中、感染症の拡大を防ぎ、いのちを守るための「距離」は必要なこととはいえ、この「ソーシャル・ディスタンス」の確保によって、これまで人や地域との「つながり」を持つことができている人、できていなかった人いずれも、「つながり」が希薄化したり、失ったりすることが様々なところで起きています。そして、そのことで「生きづらさ」を感じる人が増えているように思われます。コロナ禍に関わらず、様々な原因による同様の「社会的孤立」

は以前から地域に存在していました。そして、丹波市内にはこれまでから「社会的つながり」を地域に生み出す市民の活動があります。今、この「社会的孤立」による「生きづらさ」を防ぐ・解消するための地域で市民が支え合う活動がますます重要になってきているのではないのでしょうか。

今回の特集は、丹波市内の市民活動団体や行政機関が連携、スタートさせた“丹波「社会的つながり」プロジェクト”から、特にコロナ禍以降に広がる新たな活動に焦点を当てた「社会的つながり」を生み出す取り組みについて紹介していきます。



Topics 01 丹波「社会的つながり」プロジェクトとは

丹波「社会的つながり」プロジェクト（以下、つながりPJ）は、NPO法人丹波ひとまち支援機構（丹波市市民活動支援センター運営受託事業者）が呼びかけ主体となり、（社福）丹波市社会福祉協議会や（株）ご近所、丹波市人権啓発センター、同男女共同参画センターがそれぞれの領域や強みを持ち寄り、取り組んでいるプロジェクトです。また、地域での支え合いやつながりづくりに取り組む様々な団体（自治会や自治協議会、市民活動団体や企業等）が参加しています。

つながりPJは、コロナ禍を受け、これまでから取り組まれてきた丹波市域の人や地域との「つながり」を作り、支え合う活動等を対象に、情報や成果・

課題・価値を収集・記録し「地域自治の共有財産」として公開、市民ぐるみで応援する地域づくりを目的としています。また、様々な主体が連携・協力していくネットワークの場を作り、「社会的つながり」を多く生み出せる地域を目指し、10月にはキックオフイベントを開催しました。

イベントでは、「社会的つながり」を生み出す自治会での取り組み例として沼貫地区自治振興会での「黄色い旗」について（本紙別記事に掲載）、また市内対象とした取り組み例として「丹波市子ども・若者サポートセンター」による市民サポーターとのひきこもりにある若者と地域とのつながり、生きづらさの解消に向けた活動についてお聞

きし、学び合いました（詳細はPJのポータルサイト<http://tamba-tsunagari.net/>で閲覧可能）。さらには参加者約30人が様々な社会的「つながり」づくりに向けた取り組みを紹介、お互いの思いや活動を話し合うことで、交流・連携の機会となりました。実際に会える場も継続的に開きながら、ポータルサイトで情報を可視化していくことを予定しています。



キックオフイベントでの取り組み発表

Topics 02 地域のつながりを生み出す取り組み調査から

つながりPJでは、特にコロナ禍以降の丹波市域での「社会的つながり」を生み出す取り組み情報の量や分野、内容等について、新聞記事掲載情報（※）をもとに調査しました。

調査では、52の具体的な活動が確認でき、地域別で見ると氷上地域や柏原地域、市内全域での取り組みが比較的多く見られました。活動分野別（図1）で見ると、住民交流の取り組みが多く、コロナ禍もあって「地域行事の継続」への工夫、子育てや子どもの学習、就労支援も目立ちました。活動主体別（図2）で見ると、地域住民による「自治協・自治会」による取り組みが多く、丹波市の地域づくりの担い手の特性が表れているように見えます。また企業等法人や個人での取り組みも目立ち、これもまた特徴かもしれません。

今回の調査は限られた新聞紙面上の情報であり、今後はつながりPJ参加者から寄せられる情報、市内行政機関や自治会や各種地域団体等が持つ情報等にも情報源を広げ、市民による「社

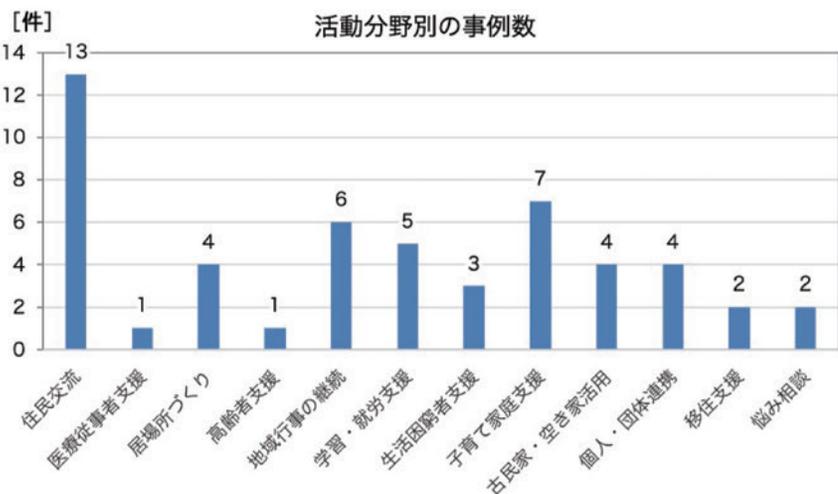


図1：活動分野別の事例数

会的つながり」の活動の状況調査を継続していく必要があります。そして、集まった情報と丹波市域における課題とを照らし合わせた時に今後必要となる活動や施策（自治会等、市民活動団体や企業、行政などによる）は何かを検証、発信し、つながりPJの参加者とともに、具体的な行動に繋げていくことこそが、つながりPJの果たすべき役割であり、中長期的に取り組んでいきます。

調査者による分類・主なもの分野1つのみ選択

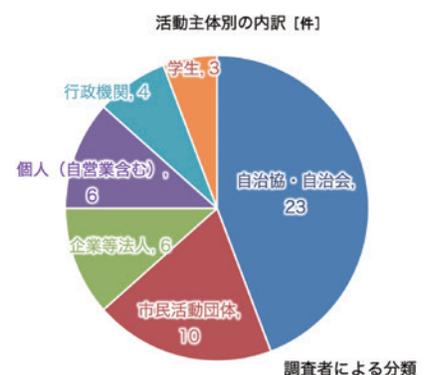


図2：活動主体別の内訳

※3紙（丹波・神戸・朝日）2020年4月～2021年9月末、丹波市市民活動支援センター調べ

隣りの自治体の 皆さんとの

TONARI no
JICHIKYO san

沼貫地区自治振興会

地区の住民の皆さんが主役

沼貫地区は市の西南に位置し、東西を山に囲まれ、その中央部を流れる加古川と左岸に国道 175 号線、右岸に県道 109 号線が南北に走る、人口約 2,500 人、約 1,000 世帯、9 自治会の地域です。振興会では人口規模に合わせて自治会から選ばれた住民で総会を開催するなど、住民が主役となって「ここに住みたい“きらめく沼貫”」をビジョンに地域づくりを進めています。

事業はテーマごとの 4 つの委員会で企画運営されています。住民主体のイベント「沼貫ふるさとまつり」は残念ながらコロナの影響で休止中ですが、健康・教育・文化などの事業をはじめ、地域の自然を感じるヒメボタル観察会や野鳥観察会など幅広い活動になっています。近年、豪雨や河川改修による水害の不安が大きな課題となっていますが、行政と連携した防災事業も重要な取り組みの 1 つです。

住民同士で支え合う「黄色い旗運動」

本誌特集でも触れた、住民同士が支えあう「黄色い旗運動」は、地区内 65 歳以上の方を対象に生活上の不安や困りごとを尋ねたアンケート調査の結果をもとに生まれた活動です。全世帯を対象に、毎朝、近隣から見やすいところに黄色い旗を掲げ、夕方に片付けることにより、隣近所同士で安否確認などに機能します。また、「旗」というシンボルによって、地域全体に見守り合う意識の醸成につながることを期待しています。

本年 4 月から稲畑自治会で試行された際には、最初の 2 週間の旗の掲出率は 38% でしたが、1 か月後には 95% にまで達しました。アンケートの分析から試行まで約 1 年かけて、自治会長や民生委員などを中心に検討、さらに試行での効果や改善点も検討し、この 11 月からは全自治会に活動を広げています。これからもトライ＆ブラッシュアップを繰り返しながら、「黄色い旗運動」を住民がここに住みたいと思う地域を育む活動にしていこうと考えています。



2021 秋の文化作品展



黄色い旗運動

丹波市民、学びの窓

パブリックコメント と地域づくり

「パブリックコメント」という言葉を聞いたことがありますか？

「パブリックコメント(以下パブコメ)」とは、今後のまちづくりの方向性や内容を定める重要な行政計画の案を公表し、広く市民に意見募集する制度のことです。丹波市では市政への積極的な市民参加を促すため「パブリックコメント手続実施要綱」に基づき、パブコメを実施しており、市内に在住・在勤・在学者のほか、市外在住でも「ふるさと住民登録制度」に登録すれば、年齢・国籍を問わず意見を提出することができます。

2020年度にパブコメを実施した計画案は5件。このうち市民活動支援センターで把握している4件を比較すると、いずれも12～3月に実施されており、支所・住民センターに計画案や意見用紙等が設置され、その計画の担当課のウェブサイトや防災無線で広報されました。応募方法はメール・FAX・郵送・持参は共通しているものの、応募箱を設置しないものが1件ありました。

市民活動支援センター主催の地域づくり講座「“パブリックコメント”を地域づくりに活かそう」の講師であるパブリックコメント普及協会のさとうひさゑさんは「パブコメは市政に関心がない市民にも広く参加を呼びかけることで関心を持ってもらえ、多様な

市民の意見を知る機会となり、快適な社会につながるもの」と話されています。センターでは計画案を読み、市の担当課に質問しみんなでパブコメを書く「パブコメミーティング」を2019年度から実施しています。丹波市のパブコメには、市民からのコメントに対し丁寧に返答され、計画への反映箇所が多いという特長があり、地域づくりに活かせる可能性を含んでいます。次回のパブコメ募集時にはぜひ一度意見を書いてみませんか。



みんなで計画について考える
パブコメミーティング



繋ぐ!市民活動

特定非営利活動法人 佐治倶楽部

特定非営利活動法人（NPO 法人）佐治倶楽部は、空き家活用サークルとして青垣町佐治地域で 2011 年より活動をスタートしました。サークル結成当初から地域住民が中心となり、佐治に暮らす人々が楽しく暮らせることを目指し、改修した空き家でのカフェやコワーキングスペース利用、イベントの開催など、会員の「やってみたい」を形にしてきました。

拠点での活動は住民同士の交流や市内外の人々とのつながりを育み、月 1 回開催している地域の交流イベント「サジイチ」は地元商店だけでなく、お店を持っていない人や学生がスペースを利用し出店できるなど自己実現への一歩となっています。活動を通して場所の提供だけでなく、チャレン

ジできる環境や地域コミュニティに貢献しています。

活動も 10 年目を迎え、地域としての空き家問題へ本格的に取り組んでいくことをきっかけに NPO 法人へ移行し、空き家の改修に加え、主体的な運営、移住定住の相談など事業の幅を広げています。

佐治倶楽部は地域とともに歩みを進めてきた中で、これまで地域の方や色々な人々と協働してきました。法人化で加速するこれからの活動についても地域とともに事業を構築しながら、豊かな環境づくりを実践していきます。



歴史ある建物の趣が残る衣川會館内観



キッチンや大きな本棚を備え「やってみたい」が詰め込まれている本町の家



活動事業者紹介

パナレーサー株式会社

来年で創業 70 年を迎えるパナレーサー株式会社は、日本で唯一の自転車タイヤ、チューブの専門メーカーであり、世界のトップメーカーたちとのしのぎを削っています。今年の東京オリンピックでは自転車競技に出場した増田成幸選手が同社の製品を利用していました。年間約 200 万本を製造、売上の半数は海外、40 カ国以上に販売しています。環境に優しい移動手段として注目され、また、世界的なアウトドアブームもあって、従業員を増やしながら増産しています。

今年 2 月にはロゴマークを刷新、スローガンも「Life Cycling Partner」と制定しました。すべての人はサイクリストであり、そのすべての人のパートナーでありた

いという想いが込められています。スポーツバイクはもちろん、通勤、通学、日常利用、自転車を使っているあらゆる世代の様々な場面で「安心して行きたい」「安全に帰ってきてほしい」を叶えたいと考えています。

その現れの 1 つが、10 月 30 日に開催された『小学校向け自転車教室』です。従業員が PTA 役員にもなっている地元の小学校で、正しい自転車の乗り方や安全点検、従業員による模範実技も含めて自転車教室開催に全面協力し、関係者皆さんに大変喜ばれました。そのほか、丹波サイクリング協会のイベント開催にも連携するなど地域に出ていく機会を増やしなが、地域の皆さんのサイクルライフをサポートしていきます。



小学校のグラウンドで練習する子どもたち



通勤奨励で従業員も自転車のあるまちづくりに貢献



丹波市市民活動支援センター

TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内

TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp

開館時間 10:00 - 18:00(会議室は 21:30 まで) / 毎週月曜日・年末年始休館

<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

【情報誌へのご意見募集】

「たむたむ」についてみなさんからのご意見、ご要望をお待ちしています。役立つ情報紙と一緒に作っていきましょう。